

「2024 年能登半島地震子どもアンケート～震災から半年 いま伝えたい子どもたちの声～」

アンケート結果報告書（速報版）

2024 年 8 月 29 日（9 月 6 日修正）

子ども支援専門の国際 NGO 公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン（以下セーブ・ザ・チルドレン）は、2024 年能登半島地震復興支援事業の一つとして、2024 年 7 月に「2024 年能登半島地震子どもアンケート～震災から半年 いま伝えたい子どもたちの声～」を実施しました。

2024 年 1 月 1 日に発生した能登半島地震に関し、被災地域における子どもたちの声を広く聴く活動はそれまで行われていませんでした。しかし、最大震度 7 を観測し、広範囲にわたって深刻な被害が起きた能登半島地震において、子どもたちが感じていることや望んでいることを知るために当事者の子どもたちの声を聴くことは、子どもの権利保障の観点から不可欠です。

国連子どもの権利条約は、子どもの意見が聴かれ尊重される権利（第 12 条 意見表明権）ⁱを、条約の原則の一つとして位置付けています。日本でも、こども基本法（2023 年 4 月施行）ⁱⁱにおいて、子どもの意見表明を規定し、その重要性を強調しています。防災の観点では、2015 年の第 3 回国連防災世界会議で採択された「仙台防災枠組 2015-2030」は、子どもと若者は「変革の主体であり、法律、国内での慣行、教育カリキュラムに則り、防災に貢献できるように、物理的空間と手段が与えられる必要がある」ⁱⁱⁱとしています。

本アンケートを通じて、震災から半年の節目に、2,000 人を超える子どもたちが、どんなことを思い、地震や復興についてどのように考えているのか、声を寄せてくれました。ぜひ子どもたちの声を受け止めてください。

本アンケートに参加してくれた子どもたち、実施にあたりご協力いただいた行政、学校、地域関係者、関係団体のみなさまに、厚く御礼申し上げます。

I. アンケート目的および実施状況

1. アンケート目的

- 2024 年能登半島地震や復興について、子どもたちが思いや意見を述べられる機会を設けること
- 子どもたちの地震や復興についての思いや意見を把握すること

2. アンケート対象および実施状況

〈主な対象地域〉 石川県七尾市、穴水町、能登町、珠洲市、輪島市（セーブ・ザ・チルドレン活動地域）

※対象地域以外でも被災の影響を受けた子どもたちがいるため、上記以外の地域の子どもも、オンラインフォームより回答可とした。

〈対象学年・年齢〉 小学 4 年生から高校生世代

〈回収期間〉 2024 年 7 月 1 日から 7 月 31 日まで

〈回収方法〉 対象地域の各自治体の教育委員会を通じて各小中学校や一部の高校へ、アンケート用紙の配布・回収、またはオンラインフォームの案内チラシの配布を行った。また、特別支援学校や、一部の高校・放課後児童クラブ、地域の支援関係者を通じて、アンケート用紙の配布・回収、またはオンラインフォームの案内チラシの配布、ウェブサイトの告知を行った。このほか、セーブ・ザ・チルドレンのウェブサイトや SNS（Facebook、X、Instagram）で回答の募集を行った。

〈実施体制〉

主催：公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

後援：七尾市教育委員会、穴水町教育委員会、能登町教育委員会

協力：鈴木 瞬氏（金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 准教授）

安部 芳絵氏（工学院大学 教育推進機構 教授／セーブ・ザ・チルドレン 理事）

〈有効回答数〉

アンケート用紙での回答	1,764 件
オンラインフォームでの回答	289 件
合計	2,053 件

※対象学年・年齢（小学 4 年生から高校生世代）以外の回答もあったが、対象学年・年齢未満は有効回答数に含め、対象学年・年齢を超えている回答は対象外とした。

〈集計・分析にあたっての留意点・アンケートの制約〉

- アンケートは子どもたちの自記式で実施し、すべての質問項目を任意回答とした。
- アンケート用紙を学校で配布・回収する場合も、提出は任意とすることを十分留意いただくよう伝えることで、災害を思い出したくない子や記入したくない子が提出を強制されないことがないよう配慮した。
- 自治体や学校によって実施・回収形態が異なるため、回答者の属性には偏りがある。
- 小学校や特別支援学校の子どもなど、必要に応じて教職員や保護者が記入を手伝ったと見られる回答もあった。
- 震災を直接的に経験していないと思われる子どもからの回答も、有効回答に含めた。
- アンケート用紙・オンラインフォームともに、すべての質問に無回答のものも含まれていたが、すべての質問項目が任意であり、無回答での提出も子どもたちの意思表示であると捉え、有効回答に含めた。
- 明らかな誤字・脱字、また、矛盾する回答、例えば「はい」と「いいえ」の両方に○がついているなどといった場合は、その後の設問の回答に合わせる形でセーブ・ザ・チルドレンが修正した。
- 本報告書に掲載した自由記述の回答は、個人情報保護の観点などから原文から一部を抜粋して文意が変わらない範囲で編集している場合がある。その他、読みやすいように句点をつけるなどした箇所がある。
- 回答結果は、小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも 100%とはならない。

Ⅱ. アンケート結果からセーブ・ザ・チルドレンが注目する点

1. 能登半島地震やその後の生活について大人や社会に伝えたいことがあるかをたずねた質問 2 において、「はい」を選択した子どもが 36.8%いた（グラフ 4）。伝えたいこととして最も割合が高かったのは「感謝の気持ち」41.0%であった。また、「地震が起きたときのこと」「被災した自分のまちのこと」「自分の住むまちの復興のこと」を選択した子どもがいずれも 3 割を超えていた。災害時に感じたことや災害後の地域の状況、復興について子どもが伝えたいと考えていることに着目したい（グラフ 6）。
2. 同じく質問 2 において、「いいえ」を選択した子どもが 39.8%、「わからない」が 22.2%いた（グラフ 4）。理由の内訳を見ると、「何を話したらいいかわからない」が 36.7%と最も高かった（グラフ 8）。一方、「話しても何も変わらない」が 16.6%、「話す機会がない」が 11.5%、「どこで話したらいいかわからない」が 10.4%であった。この結果から、潜在的には被災に関連して何かを伝えたいと思っても、その環境が整っていないため伝えられない、言うことをあきらめた子どもたちが一定数いることが推察される（グラフ 8）。
3. 今後の復興に向けて何かしたいことがあるかをたずねた質問 3 において、何か行動したいという選択肢 1～9（表 8）を 1 つでも選択した子どもは 64.0%（1,313 人）と 6 割を超え、復興に関する選択肢 6～8 のうち 1 つでも選択した子どもが 21.2%（435 人）いた。また、質問 2 で大人や社会に伝えたいことの有無について「いいえ」「わからない」を

選択した子どもであっても、「自宅やまちの片付け」や「地域の行事への参加」を選択した子どもがそれぞれ 2 割を超えており、「復興について子ども同士で話し合う」「復興について大人と話し合う」を選択している子どもも少数ながらいいた（グラフ 13）。これらの結果から、復興のために何かしたい・話したいと思う子どもたちに、今後、大人側が何らかの機会を提供していくことが重要だと考える。

4. 自由記述では、より具体的な子どもたちの願いや訴えが少なからずあった。例えば、子ども自身の学びや暮らしが大きな制約を受けていることへの悲しみや苛立ち、そのために学ぶ環境や経済的支援、子どもが過ごせる場の環境整備を望む声が複数あった。さらに、「こんなに復興がおそいということにびっくりしています」「自分のまちの復興ができるのか」という驚きや疑問、「見捨てないでほしい」といった切実な訴えもあった。
5. さらに、自由記述では、子どもの意見を聴いてほしいという意見もあった。「子どもの意見を取り入れようとしてくれない」「直接、大人たちと話しあい、子どもの意見や思いを取り入れてほしい」という声は、少数であったとしても子どもの権利保障の観点から重要である。こうした声を地域の大人が尊重することによって、今後の復興や防災に子どもたちが主体的に関わっていこうという思いの醸成につながるだろう。

Ⅲ. 質問項目および集計結果

都道府県

石川県内からの回答が 2,035 件と全体の 99.1%であった。石川県以外からの回答は 11 件、無回答は 7 件だった。石川県以外の内訳は「愛知県」「富山県」「新潟県」「東京都」「大阪府」「静岡県」「愛媛県」（回答数順）などであった。

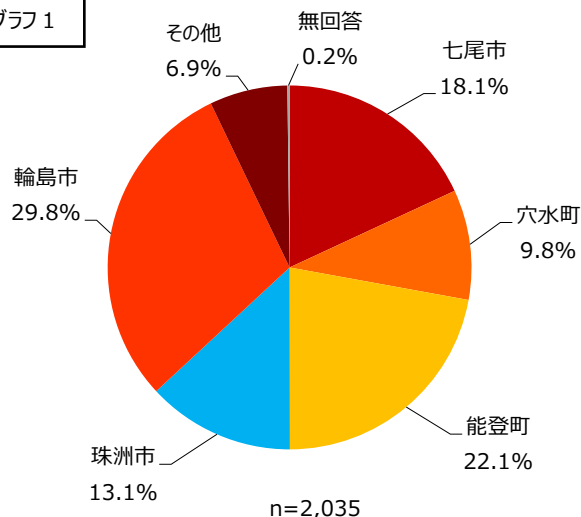
石川県内の市町村の内訳

表 1

No.	カテゴリ	件数	%
1	七尾市	368	18.1
2	穴水町	199	9.8
3	能登町	450	22.1
4	珠洲市	267	13.1
5	輪島市	606	29.8
6	その他	141	6.9
	無回答	4	0.2
	回答者数	2,035	100.0

※石川県内からの回答 2,035 件の内訳

グラフ 1



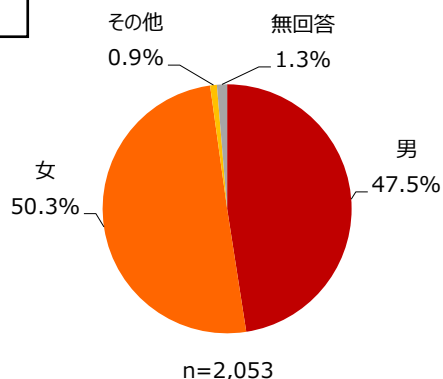
1. あなたについて教えてください。

(1) 性別（単数回答）

表 2

No.	カテゴリ	件数	%
1	男	976	47.5
2	女	1,032	50.3
3	その他	18	0.9
	無回答	27	1.3
	回答者数	2,053	100.0

グラフ 2

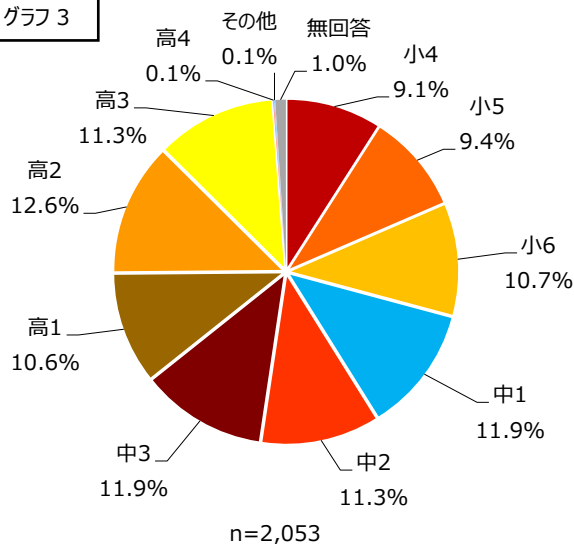


(2) 学年・年齢（単数回答）

表 3

No.	カテゴリ	件数	%
1	小 4	186	9.1
2	小 5	194	9.4
3	小 6	219	10.7
4	中 1	245	11.9
5	中 2	231	11.3
6	中 3	245	11.9
7	高 1	217	10.6
8	高 2	258	12.6
9	高 3	233	11.3
10	高 4	2	0.1
11	その他	2	0.1
	無回答	21	1.0
	回答者数	2,053	100.0

グラフ 3



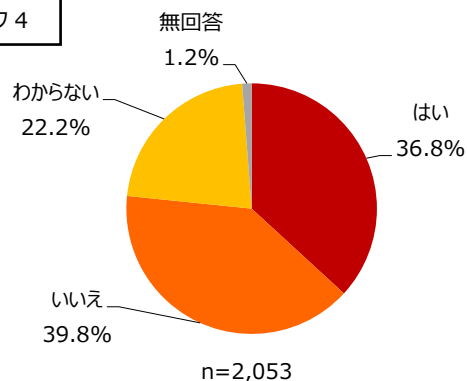
2. あなたは、能登半島地震やその後の生活について、大人や社会に伝えたいことはありますか。（単数回答）

能登半島地震やその後の生活について大人や社会に伝えたいことがあるかをたずねたところ、「いいえ」が 39.8%、次いで「はい」が 36.8%、「わからない」が 22.2%であった。年代ごとのクロス集計を見ると、小学生は「いいえ」が 4 割を超え、「はい」も 4 割近くとなった。中学生は「はい」が 4 割を超え、「いいえ」よりも選択した子どもの割合が高かった。高校生世代は、「はい」が 28.5%と他の年代と比べて最も低く、「わからない」が 3 割近くとなった。

表 4

No.	カテゴリ	件数	%
1	はい	756	36.8
2	いいえ	817	39.8
3	わからない	455	22.2
	無回答	25	1.2
	回答者数	2,053	100.0

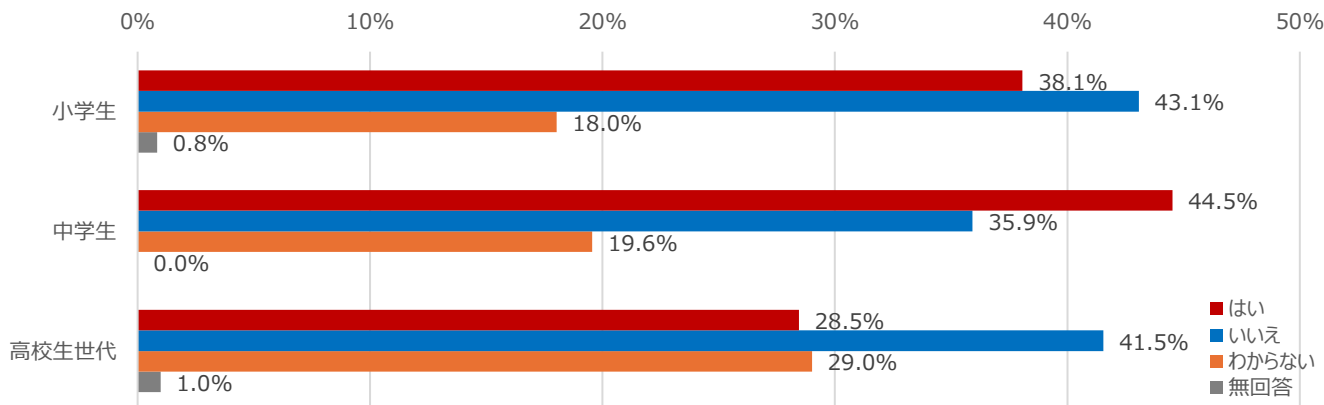
グラフ 4



【クロス集計】

「2. あなたは、能登半島地震やその後の生活について、大人や社会に伝えたいことはありますか。」の回答と、年代（小学生、中学生、高校生世代）のクロス集計

グラフ 5



※学年・年齢の「その他」と無回答を除いた 2,030 人の内訳（小学生：n=599、中学生：n=721、高校生世代：n=710）

（1）「はい」と答えた人にお聞きます。

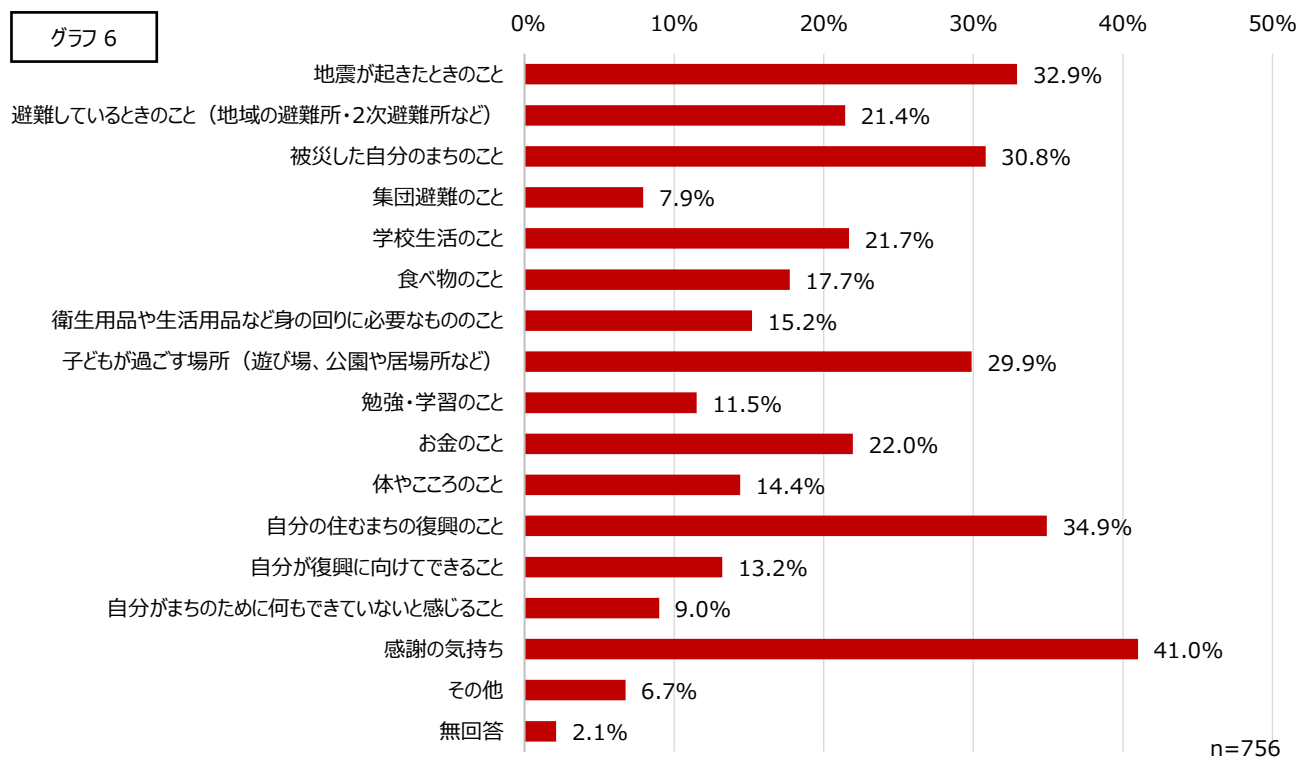
（1）-1. どんなことを伝えたいですか。（複数回答）

上記「はい」と回答した子どものうち、伝えたい内容として「感謝の気持ち」を選択した子どもが 41.0%であった。また、「地震が起きたときのこと」「被災した自分のまちのこと」「自分の住むまちの復興のこと」がいずれも 3 割を超えており、地震発生時の様子を伝えたい子ども、自分のまちや復興に関心を寄せている子どもが一定数いることが明らかとなった。「避難しているときのこと（地域の避難所・2 次避難所など）」「学校生活のこと」「子どもが過ごす場所（遊び場、公園や居場所など）」「お金のこと」も 2 割を超えており、自由記述からは自分たちの生活の状況や心配ごと、要望を伝えたいと考えている子どもの存在も浮かび上がった。「体やこころのこと」も 14.4%おり、災害後の自分の体やこころの変化について心配する声もあった。

表 5

No.	カテゴリ	件数	%	No.	カテゴリ	件数	%
1	地震が起きたときのこと	249	32.9	10	お金のこと	166	22.0
2	避難しているときのこと（地域の避難所・2 次避難所など）	162	21.4	11	体やこころのこと	109	14.4
3	被災した自分のまちのこと	233	30.8	12	自分の住むまちの復興のこと	264	34.9
4	集団避難のこと	60	7.9	13	自分が復興に向けてできること	100	13.2
5	学校生活のこと	164	21.7	14	自分がまちのために何もできていないと感じること	68	9.0
6	食べ物のこと	134	17.7	15	感謝の気持ち	310	41.0
7	衛生用品や生活用品など身の回りに必要なもののこと	115	15.2	16	その他	51	6.7
8	子どもが過ごす場所（遊び場、公園や居場所など）	226	29.9		無回答	16	2.1
9	勉強・学習のこと	87	11.5		回答者数	756	-

※質問 2 にて「はい」と回答した人が対象



●「その他」の回答（一部抜粋）※（ ）内は地域、学年、性別

- ・ 命の大切さ。（穴水町、小 6、女）
- ・ 水は使えるけど、浄化槽がなおらないから、トイレやお風呂使えない。（七尾市、無回答、女）
- ・ 地域のために身を尽くして働いてくれた役場職員のみなさんのこと。（七尾市、高 3、女）
- ・ 能登人間にとって一番大事な祭りを大人達だけでするかしらないか決めてしまうこと。僕たちから笑顔を奪わないでほしい。未来は僕たちなのだから。（能登町、中 1、男）

(1) -2. 上で選んだことをだれに伝えたいですか。(複数回答)

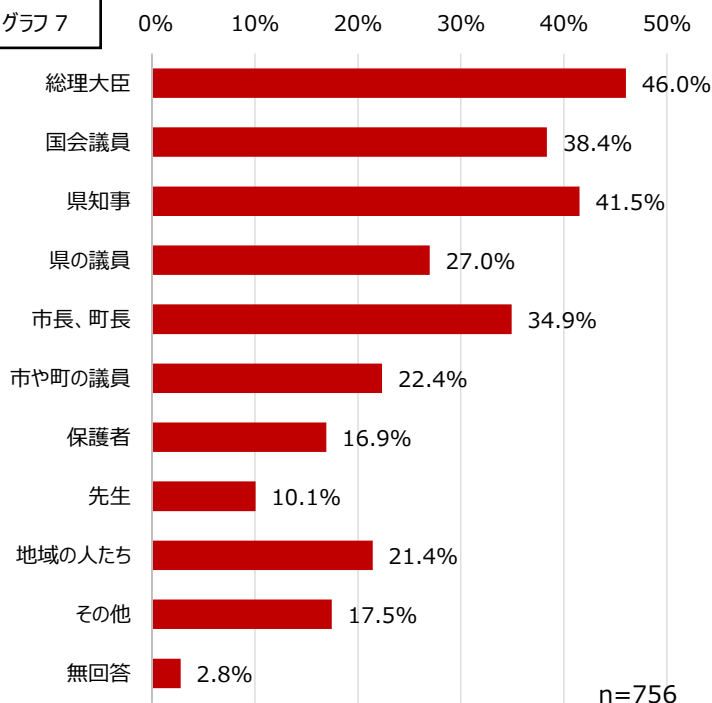
自分が思っていることを伝えたい相手は、「総理大臣」が 46.0%と最も多く、次いで「県知事」が 41.5%となった。「保護者」「先生」「地域の人たち」に比べ、総理大臣や首長、議員など政策決定者を選択する割合が高くなっており、政治や政策を担う大人に自分たちの思いや意見を伝えたい子どもが多数いることが分かった。

表 6

No.	カテゴリ	件数	%
1	総理大臣	348	46.0
2	国会議員	290	38.4
3	県知事	314	41.5
4	県の議員	204	27.0
5	市長、町長	264	34.9
6	市や町の議員	169	22.4
7	保護者	128	16.9
8	先生	76	10.1
9	地域の人たち	162	21.4
10	その他	132	17.5
	無回答	21	2.8
	回答者数	756	-

※質問 2 にて「はい」と回答した人が対象

グラフ 7



●「その他」の回答（一部抜粋）※（ ）内は地域、学年、性別

- ・ 支援に関わってくれたボランティアの方や自衛隊の方（七尾市、小 6、女）
- ・ 私達のことを忘れていないひと全員（輪島市、高 3、女）
- ・ 地震を体験したことのない人（七尾市、高 1、男）

※その他、全国の人たち、支援者という回答も複数あった。

(1) -3. 具体的にどんなことを伝えたいか、あなたの思いや意見をくわしく教えてください。

この質問への自由記述は 676 件寄せられた。自由記述で出現頻度が高い単語を、出現度合いに応じた大きさで表示すると以下ようになった。地震や避難した時の状況なども多く寄せられたが、学校生活や学び、道路の補修、遊び場や公園など子どもが過ごす場についての声もあった。地震後、辛い、苦しい、怖いと感じる子どもたちの声も寄せられている。

●子どもの過ごす場所

- ・ きけんなばしょ、がふえて公園の使えない場所たくさんふえて、あまりあそべない。じしんがおきた月は友だちにもあえなくて心配だったこと。（七尾市、小 5、男）
- ・ 仮設住たくなどで公園やグラウンド、外で遊べるところが減っていています。ぼくたちが安全に遊べる場所がほしいです。（穴水町、小 6、男）
- ・ グラウンドにはかせつじゅうたくが立っているから、外であそべるところがほしい。（珠洲市、小 4、女）
- ・ じしんがあつてしかたないと思うけど公園など自分たちの力でいけていた場所がどんどんかせつじゅうたくになるのでみんなでしゅうごうするばしょがほしい。（珠洲市、小 6、男）
- ・ 地震前は朝や、昼休みでいつもだったら体育でドッチボール、おにごっこ外でかくれんぼや、サッカーなどで遊べたけど地震後（今）だったら外でも、体育館でも遊べないからたいくつになる。（輪島市、小 5、男）
- ・ 輪島市は道路もガタガタで、家も 1 月 1 日 4 時のそのまま、どれだけ月日がたっても、すてきな輪島の姿がまだまだ見れません。私は、家がつぶれ、仮設住たくが建ったことにより、子どもの遊び場所がなくなったことにとても残念です。私たちの遊び場をもうけてください。（輪島市、中 1、女）
- ・ 中学生がすごせる場所、自転車でも安全に交通できる道、がほしい。（遊びや勉強スペース、学校行事ができる所）（輪島市、中 1、女）
- ・ グラウンドや体育館が使えないから、小学校最後の年に、スポーツ少年団の活動ができなくて悲しいです。（無回答、小 6、男）

●感謝の気持ち、日常のありがたさ

- ・ 当たり前だったことは当たり前ではないということに感謝しなければならないということ。（七尾市、高 3、女）
- ・ 普段通りに部活ができなくなり、みんなと会えない日々が続く、普段通りの生活で部活や学校生活を送れることへのありがたみ。（七尾市、高 2、男）

●学校生活、学びへの影響

- ・ 「受験生」だったので、そんな私にとっては水が出ず、手伝いで給水所まで行くため、勉強時間を十分に確保できなかった。また、学校再開が遅く、勉強におくれを感じていた。（七尾市、高 1、女）
- ・ 学校から見える景色が、がれきで悲しくなる。・自転車で通学したい。（珠洲市、中 2、女）
- ・ 総理大臣様、県知事様へ このたびは、ごしえんありがとうございます。しかし、まだまだ復興がおそくきびしいじょうきょうであります。私たちの学校はまだ人がたくさん（小学生、ひなん者）いてまんぞくかない学校生活です。私たちができるはずだったことやたくさんなことをできるようにもう少し力をかけてほしいと思っています。（輪島市、中 1、女）
- ・ 私たち政府に見捨てられた高校生 3 年生は 1 月から 4 月までの授業をろくに受けられもせず、生きるのに必死でした。1 つ上の学年はもう共通テストや 2 次試験を受けるだけなのに、支援して頂いていました。これから受験する高校生には支援はないのでしょうか。東京や他の県の高校生と 4 ヶ月の差があります。1 つ上の学年に差はありましたか？私は無いと思います。いくら頑張ってもこの空白の 4 ヶ月を埋めることは出来ません。私達にも受験の支援を頂きたいです。どうか、見捨てないで下さい。まだまだ未来を担う若者は輪島に居ます。故郷を無くさないでください。お願いします。（輪島市、高 3、その他）
- ・ マリントウンの競技場が仮設住宅で埋め尽くされ、部活をしたいのですが、できません。新しい競技場を作ってください。（輪島市、中 2、男）
- ・ 地震で習い事やじゅくが減ってしまって、地震後、珠洲を離れた子達と、大きな学力の差ができてしまったと実感した。被災地においても充実した学習をさせてほしい。（珠洲市、中 3、女）

●生活や住宅への支援、経済的支援

- ・道路の復興を進めてほしい。被災した人への支援をもっと厚くしてほしい。（家を失った人や家を修理しないといけない人のためにお金の給付など）（能登町、高2、女）
- ・家を再建するお金はどうするんですか。ぎえん金ももっとあるとうれしいです。（珠洲市、小5、男）
- ・今、お家がみなしかせつになって、そこに住んでいます。かせつじゅうたくには一部そんが、半かいだから、はいれません。お家がみなしかせつになってしまった人はかせつじゅうたくに入れてあげてください。意見をきいてくださってありがとうございます。（輪島市、小6、女）
- ・母子家ていにお金をあげてほしい。（輪島市、中2、男）
- ・もっと能登の復興のことやお金など全然足りない 能登を見て見ぬふりしないで 能登のこと考えろ。（輪島市、中2、男）
- ・お金、、しょうらいのじぶん こうこうせいになっておかねがあるかわからない 不安。（珠洲市、中2、女）
- ・地元は離れたくないし、でも、お金がなくて、ふつうの日常を過ごせてません。どうか生活費だけでもください。おねがいします。（輪島市、中2、女）
- ・輪島市は見捨てられたんですか。帰る場所がないのは嫌です。自分がおとなになっても、帰ってこれるように支援してほしいです。（輪島市、高3、女）

●地震への怖さ、体やこころの不安

- ・前の生活とちがうところがありストレスがたまる。（穴水町、小6、女）
- ・体やこころのことでは、自分の本音をいえるかん環をつくってほしい。（珠洲市、小6、女）
- ・今でも余震が来ると、あの日の事を思い出して泣いてしまいます。1週間に一度は夢に見てしまいます。（七尾市、中2、女）
- ・ひさいして、体ちようがわるくなりやすくなった。お金のこと、食料とかにも、食べ物のお金がいるから。（輪島市、小4、女）
- ・どれだけ時間がたっても、何度も地震のことを思い出してしまいます。・地震が起きるときに聞こえる「ゴー」という音と似た音が聞こえると身構えて、少し怖くなります。（七尾市、高3、女）
- ・古い家に住んでいると、しんど2、1だけでも、家がゆれていつもいつも手がふるえてしまってこわい。（輪島市、小6、女）
- ・日本はどこでも地震が起こって安心できません。頑じょうな地など対策を早く進めてほしいです。ほんとに安心できなくて夜眠れてません。この声は届かないと思うし実行されないと思うけど、安心な日本のためお願いします。（穴水町、中3、女）

●今後の復興や防災に向けて

- ・ふっこうは何年かかるんですか？（珠洲市、小5、男）
- ・今、ぼくにできることはありませんか？（珠洲市、小5、男）
- ・いまだくらい復興していますか。あと何年かかりますか。復興にお金どれくらいかかっていますか。（珠洲市、小5、女）
- ・あそべる場所がない。子どもの意見を取り入れようとしてくれない。（能登町、中2、女）
- ・なんで地震から半年以上もたっているのに、断水しているところはたくさんあって、道路もガタガタなところがたくさんあるんですか。（珠洲市、小6、男）
- ・地震があってから、もう半年がたちましたが、こんなに復興がおそいということにびっくりしています。まだ、仮設住宅に住めていない人もいるということです。がんばっているのはわかっています。ですが、もっと能登の方たちの意見を尊重し、活動をしてもらいたいですか？お願いします。（穴水町、中1、女）
- ・自分たちだけでできることがあまりないです。でも大人の人たちがいると安心して、できることもあります。そしたら、小さな行事でもできます。なので、できるかぎりのことをやらせてください。（珠洲市、小5、女）
- ・いつおこるかかわからないから、おこるまえからじゅんぴをしておこうとおもった。（穴水町、中3、男）
- ・今回みたいに正月やお盆などの帰省している人が多いとき、避難所のスペース足りていない。中高生でも運営できることがある。（能登町、高2、男）

- ・被災した建物の公費解体が始められたがまだ数%の建物しか解体が終わっていないため、どうやってペースを上げて進めていくのか。今後、能登の復興を進めていく中で、何が必要なのか。（その他、高 3、男）
- ・まだまだふっこうできていないので国はなにをしているのだろう？なぜもっとわじまにきょうりよくしてくれないの？そのりゆうをきかせてください。（輪島市、小 4、男）
- ・復興のとき、これまでの輪島にただもどすだけじゃなく、みんな（市民）が実現したい夢のようなまちにしてほしい。（輪島市、小 6、男）
- ・被災した時の防災グッズで特に役に立ったものや、今の私たちの学校の現状を伝えたい。（能登町、高 3、女）
- ・自分は、この能登を自然豊かにしていきたいです。自然を豊かにしたら、観光客も増えると思ったから。（能登町、中 1、女）
- ・じしんで能登島水族館のジンバイザメや小さな魚が死んでしまったから早くたくさんの魚を見たいです。（輪島市、小 4、女）

●現状を知ってほしい、協力してほしい

- ・目をそむけないでほしい。見捨てないでほしい。（七尾市、高 2、その他）
- ・じしんのことをニュースにでにくくなっていることが心ばい。全国に今のじょうきょうを知ってほしい。だん水や、てい電が大変なことをしてほしい。（輪島市、小 5、女）
- ・半年、経っても何も変わっていないし、じしんのことをいろんな人に伝わっていない。（輪島市、中 3、女）
- ・輪島の復興がぜんぜん進んでいないから見捨てられてるんじゃないかな？と思う。国や県でこのことについての会議をもう一度してほしい。考えなおしてほしい。（輪島市、中 3、男）

●その他

- ・辛かった。（七尾市、高 1、女）
- ・役場職員の皆さんは多くの時間を、本当は職務外のことにまで費やしてくれたことを知っています。どうか本来職務外のことで役場職員に無茶ぶりしないようにすることを心に留めて置いて欲しいです。また電気もネットも使えない時、唯一外の世界を知るのに使えたのはラジオでした。私たちが心配してくれている人が全国にいるとラジオを通して知れただけでホッとしたので、精神安定のためにも情報源としてもラジオを持っておくのは有用だということを共有したいです。（七尾市、高 3、女）
- ・避難中は、いろんな地域のいろんな人に沢山助けてもらって、ありがとございました。中には文句を言ったり、いやな態度をとったりする人もいたけど、協力しあえたら良いと思いました。（無回答、小 6、男）
- ・総理大臣が石川県の復興に来て、30 分で帰っていったらしい。ちょっと一階をのぞいて帰っていったのが、クソと思った。それなら、こないのと同じやと思いました。（七尾市、中 2、女）

（2）「いいえ」「わからない」と答えた人にお聞きします。

なぜそう思ったのか教えてください。（複数回答）

能登半島地震やその後の生活について大人や社会に伝えたいことがあるかという質問に対し「いいえ」「わからない」と回答した子どもにその理由をたずねたところ、「何を話したらいいかわからない」が 36.7%と最も高かった。次いで「話す必要がない」が 20.0%、「話しても何も変わらない」が 16.6%、「特に話したくない」が 16.0%となった。また、勉強、部活や習いごとなどの忙しさを理由にあげた子どもがそれぞれ 15.3%、14.5%いた。「すでに伝えている（まわりに聞いてくれる人がいる）」を選択した子どもが 12.7%いる一方、「話す機会がない」が 11.5%、「どこで話したらいいかわからない」が 10.4%いることが分かった。

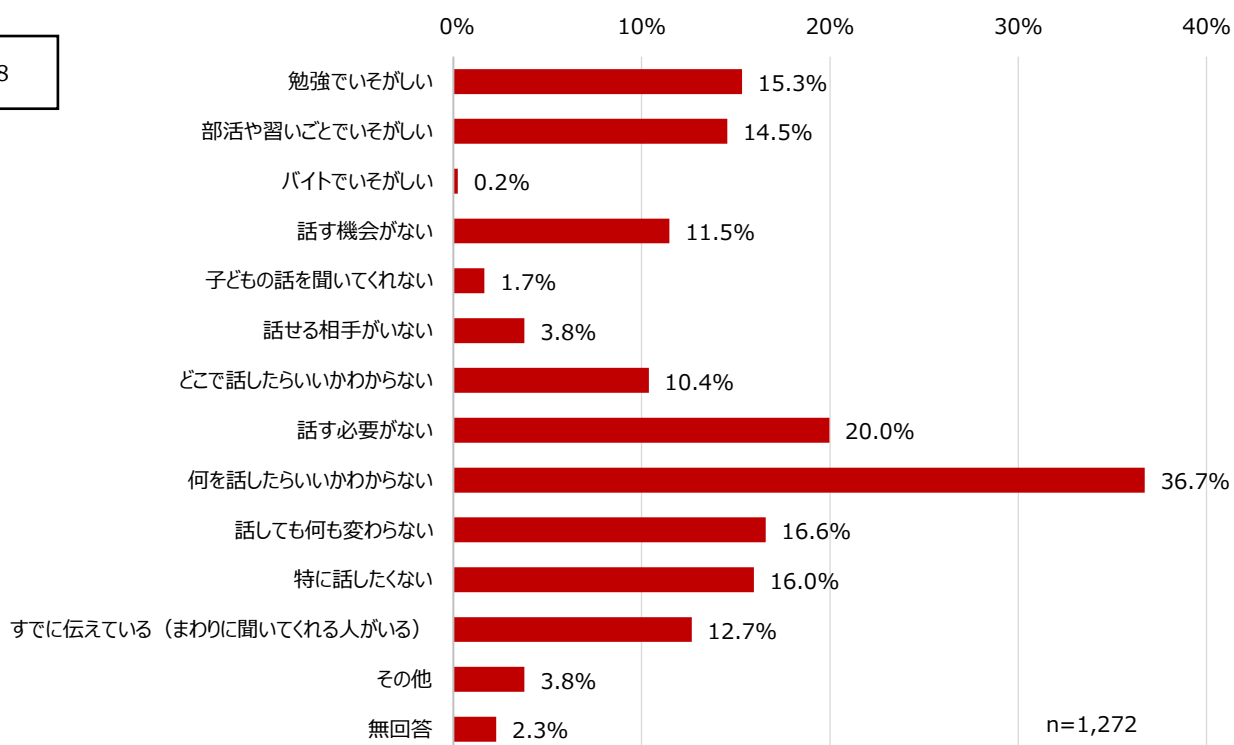
上記理由のうち、いくつかを年代別にクロス集計したところ、「話しても何も変わらない」を選択した子どもは、中学生が 24.0%と最も高かった。「何を話したらいいかわからない」はどの年代でも 3 割を超えた。「話す機会がない」では、高校生世代が 14.8%と最も高かった。

表 7

No.	カテゴリ	件数	%	No.	カテゴリ	件数	%
1	勉強でいそがしい	195	15.3	8	話す必要がない	254	20.0
2	部活や習いごとでいそがしい	185	14.5	9	何を話したらいいかわからない	467	36.7
3	バイトでいそがしい	3	0.2	10	話しても何も変わらない	211	16.6
4	話す機会がない	146	11.5	11	特に話したくない	203	16.0
5	子どもの話を聞いてくれない	21	1.7	12	すでに伝えている（まわりに聞いてくれる人がある）	161	12.7
6	話せる相手がいない	48	3.8	13	その他	48	3.8
7	どこで話したらいいかわからない	132	10.4		無回答	29	2.3
					回答者数	1,272	-

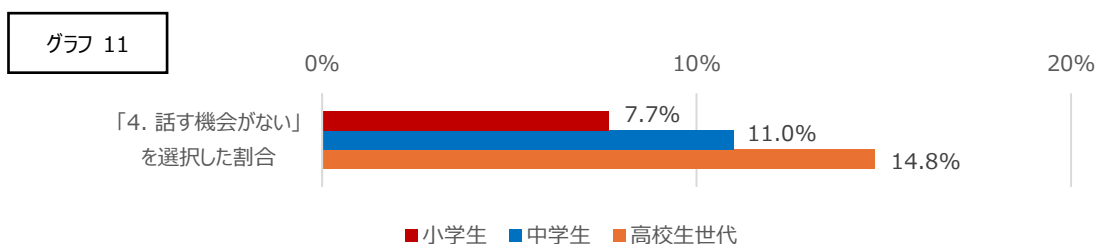
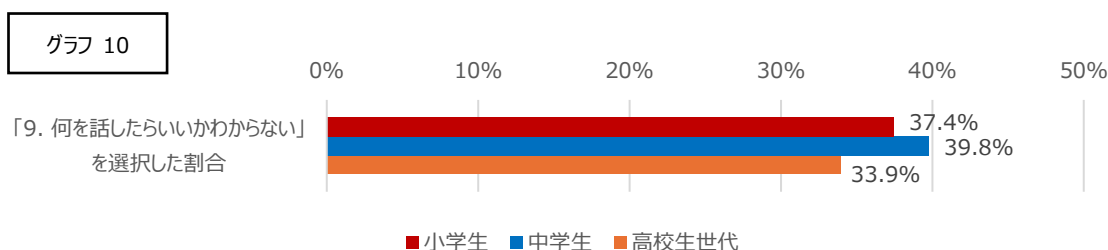
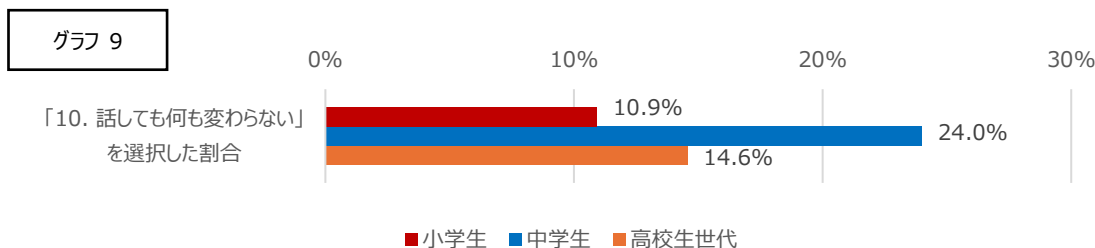
※ 質問 2 にて「いいえ」「わからない」と回答した人が対象

グラフ 8



【クロス集計】

「(2)「いいえ」「わからない」と答えた人にお聞きます。なぜそう思ったのか教えてください。」の回答と、年代（小学生、中学生、高校生世代）のクロス集計



※質問 2 にて「いいえ」「わからない」と回答した人のうち、学年・年齢の「その他」と無回答を除いた 1,267 人の内訳
(小学生：n=366、中学生：n=400、高校生世代：n=501)

●「その他」の回答（一部抜粋）※（ ）内は地域、学年、性別

- ・ 地震を思い出したくない。（能登町、高 1、女）
- ・ 地震の時、門前にいなかったからわからない。（輪島市、中 1、女）
- ・ はなしてかなしむ人もいるから。（能登町、中 2、男）
- ・ おやこの手紙でつたえたかったことをつたえたから。（穴水町、小 5、女）
- ・ 能登半島地震の事が思い出せない。（珠洲市、中 1、男）

3. あなたは、これからの復興に向けて自分の住むまちのために何かしたいことはありますか。今の気持ちに当てはまるものすべてに○をつけたり、書いたりしてください。（複数回答）

本アンケートに回答した全員に、これからの復興に向けて何をしたいかたずねたところ、何らかの行動したいという選択肢 1～9（表 8）を 1 つでも選択した子どもは 1,313 人、64.0%であった。具体的には、「自宅やまちの片付け」が 27.0%と最も高く、「地域の行事への参加」が 24.7%と 2 割を超えた。次いで「まわりの人をはげます」が 17.6%、「募金」が 16.9%で子どもが比較的参加しやすい項目が選択された。ほかに、「震災を語りつぐ」が 13.7%、「復興計画について知る」が 13.0%、「復興について子ども同士で話し合う」が 9.9%であった。復興に関する選択肢 6～8 のうち 1 つでも選択した子どもは 435 人、21.2%いた。

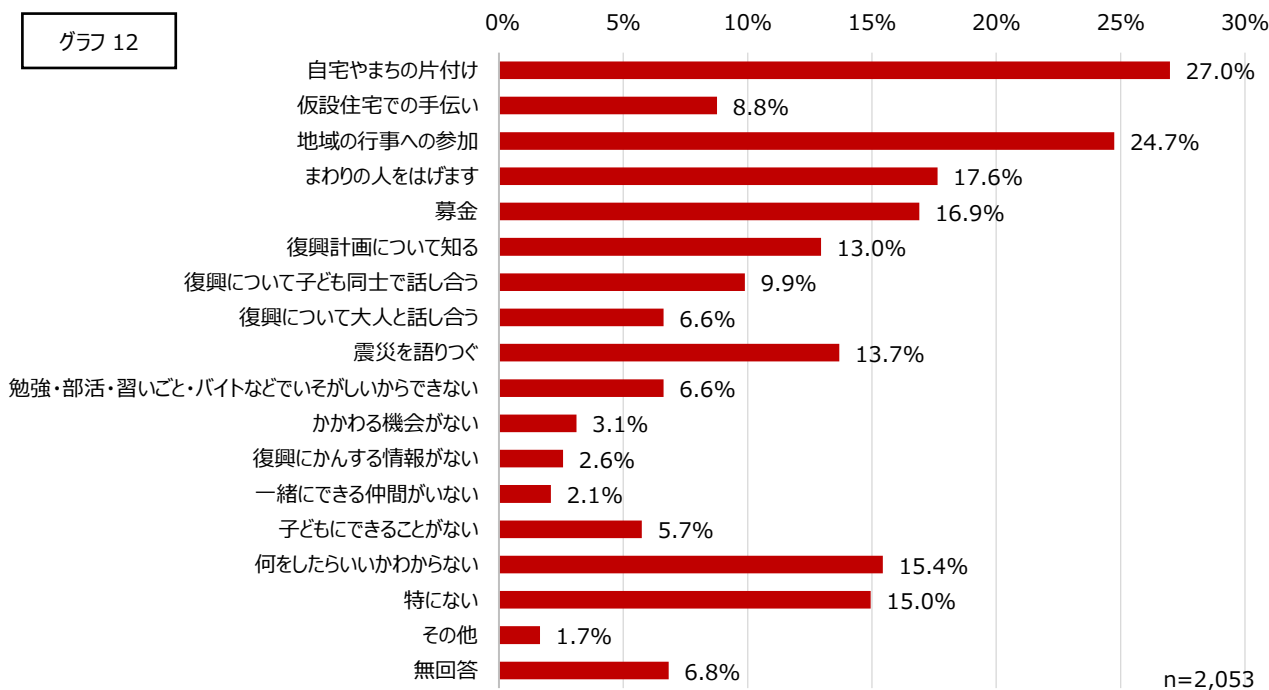
一方、「何をしたらいいかわからない」を選択した子どもが 15.4%、「子どもにできないことがない」が 5.7%、「かかわる機会がない」が 3.1%あり、潜在的には何かしたいと思っても十分な情報や機会が得られていないと思われる回答もあった。

また、質問 2 とのクロス集計を行ったところ、伝えたいことがあるかという質問に「いいえ」「わからない」と回答した子どもであっても、これからの復興に向けてしたいこととして「自宅やまちの片付け」や「地域の行事への参加」などを選択している子どもが一定数いた。また、質問 2 で「わからない」と答えた子どものうち 2 割が「何をしたらいいかわからない」を選択していた。

表 8

No.	カテゴリ	件数	%	No.	カテゴリ	件数	%
1	自宅やまちの片付け	554	27.0	10	勉強・部活・習いごと・バイトなどでいそがしいからできない	136	6.6
2	仮設住宅での手伝い	180	8.8	11	かかわる機会がない	64	3.1
3	地域の行事への参加	508	24.7	12	復興にかんする情報がない	53	2.6
4	まわりの人をはげます	362	17.6	13	一緒にできる仲間がいない	43	2.1
5	募金	347	16.9	14	子どもにできないことがない	118	5.7
6	復興計画について知る	266	13.0	15	何をしたらいいかわからない	317	15.4
7	復興について子ども同士で話し合う	203	9.9	16	特にない	307	15.0
8	復興について大人と話し合う	136	6.6	17	その他	34	1.7
9	震災を語りつぐ	281	13.7		無回答	140	6.8
					回答者数	2,053	-

グラフ 12

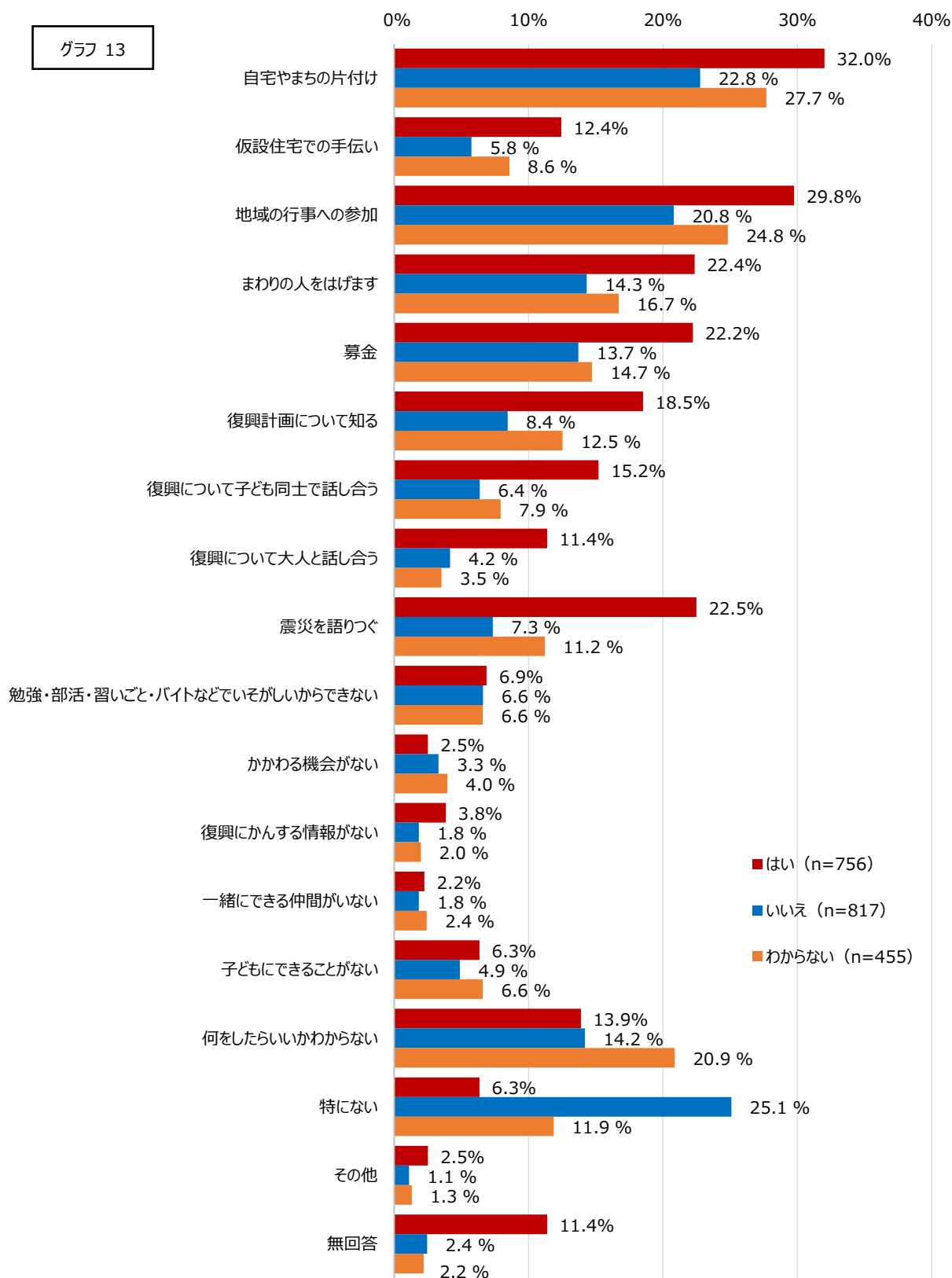


●「その他」の回答（一部抜粋）※（ ）内は地域、学年、性別

- ・ サッカーで勇気をあたえる。（七尾市、高 3、男）
- ・ 被災者として被害がなくて充実しているのに手伝うことができない。（年れい低いとか？）（能登町、中 3、女）
- ・ このようなアンケートなどでまちをみんなで復興していきたい。（輪島市、小 6、女）

【クロス集計】

「2. あなたは、能登半島地震やその後の生活について、大人や社会に伝えたいことはありますか。」の回答と、「3. あなたは、これからの復興に向けて自分の住むまちのために何かしたいことはありますか。」のクロス集計



4. そのほか、能登半島地震について感じていること・考えていることなどがあれば教えてください。（一部抜粋）

※（ ）内は地域、学年、性別

- ・ ネットニュースなどを見ると「政府の対応が遅い」という声をよく目にするのですが、実際に復興があまり進んでないと感じています。国の予算なども、もちろん分かるのですが、もう少し何かできることはないのでしょうか。一人暮らしをしている祖母がいるのですが、いつもいつも心配です。（七尾市、高 3、女）
- ・ やっぱり命は大切だなと思いました。あと大人にはなかなか言えなかったりするので話し合うときは子供同士だけで話せるといいと思いました。（穴水町、小 6、女）
- ・ そのことを忘れない。1 番こわい思いをしたから、思い出したくないです。この地震について話しても、人は「へえ～」でおわるといいます。→そうなるのだったら話す必要なんてない。（能登町、中 2、女）
- ・ ニュースなどはもう地震について触れていなくて、忘れられている気がする。毎月 1 日にのみ話題にあがって、いつも同じことを言っている。もうすでに頑張っている人たちがたくさんいるのに頑張ればかりいわれるのは嫌。（能登町、高 1、女）
- ・ どのようにまわりの人をはげませば良いですか。（珠洲市、中 3、男）
- ・ 1 月 1 日に、みんなで楽しく正月を迎えていたのに、これからの、1 月 1 日は、みんなで黙とうをして、とても静かな 1 月 1 日になるのが、とてもあの時を思い出すし、いやな気持ちになります。早く復こうするよう願っています。（輪島市、中 1、女）
- ・ たくさんの人が辛い思いをして、今も大変な生活を送られている人がいる中で自分はやりたいバスケをできていて、本当にこれは当たり前じゃないんだなと実感することができました。常に周りに支えられている、辛い思いをしながら生活をしているっていうのを頭の中に入れておいて、1 分 1 秒無駄なくがんばりたいです。（七尾市、高 1、女）

5. このアンケートの感想や、セーブ・ザ・チルドレンに伝えたいことがあれば教えてください。（一部抜粋）

※（ ）内は地域、学年、性別

- ・ あの時のことを思い出すと涙が出てしまうけど、あまり他の人に言えなかったことを吐き出せてよかったです。（能登町、高 3、女）
- ・ 自分の中でも、何を考えているか、そして、自分の思っていることが、頭の中で、整理できたので良かったです。（珠洲市、小 6、男）
- ・ 能登半島地震について思っていることなどを書いて、気持ちが少し楽になったので良かったです。（能登町、中 1、男）
- ・ 大人に相談できないことも伝えられて良かったです。（輪島市、小 6、女）
- ・ 子供の意見が聞かれることはなかなか無いので、ありがたいです。（輪島市、中 3、女）
- ・ 子供でも意見を言えるのが嬉しかった。（七尾市、中 2、女）
- ・ 地しんのことについてあまり答えたくなかった。（珠洲市、小 4、男）
- ・ 自分でもなにかできる事があるか考えようと思った。（穴水町、中 3、男）
- ・ 大人と話し合うきかいをつくってみたい。（珠洲市、小 6、男）
- ・ 私たちはまだまだ子供ですが少しでも復興に向けできることに協力していきます。（能登町、中 2、女）
- ・ 復興するために、何をしたらいいのかわからなくて困ってます。（七尾市、高 3、女）
- ・ 自分たちの想いが全国に届いてほしい。（輪島市、高 2、男）
- ・ このアンケート結果を世の中に広めてみんなに知っていただきたい。（石川県外、高 3、男）
- ・ 自分たちの考えを日本の政府や社会に伝えられる機会がもらえて良かったと思う。（その他、高 3、男）
- ・ こういうアンケートがあるおかげで自分達の思いがいろんな大人へ伝わるんだとうれしく思っています。（珠洲市、中 1、女）
- ・ 本当に届くのですか。私の意見を必ず国会で議題にあげてください。それが無理なら、必ず国会議員に伝えてください。（輪島市、高 3、その他）

IV. まとめ

2022 年のこども基本法成立、2023 年のこども家庭庁設置以降、子どもに関わるあらゆる政策の中で、子どもの意見表明権（子ども参加）の確保が重要視されている。国連子どもの権利委員会一般的意見 12 号^{iv}は、子どもの意見表明権について「危機状況またはその直後の時期においても停止しないことを強調する」と明記し、災害後でも子どもの意見を聴き、正當に尊重すべきとしている。

今回のアンケート結果をみると、能登半島地震後に子どもたちが意見を伝えられる機会は十分に作られていなかったように思われる。実際、今回のアンケートを通して「意見を言えてよかった」といった感想と同時に、「どこに伝えていいのか分からない」、「伝えても仕方がない」という子どもたちの思いも浮き彫りになった。災害後であっても子どもが意見を伝える機会・環境を保障していくことは大人側の責任であり、そのためには平時からの環境づくりが必要だろう。

自由記述には学習環境への不安、遊びやスポーツなど子どもの居場所が減少していること、震災の影響で体やこころへの影響を心配する声や支援を望む声も寄せられた。子どもたちの声に寄り添った多様な政策・施策の実行が求められる。

アンケートに回答した高校 3 年生は、「私の意見を必ず国会で議題にあげてください。それが無理なら、必ず国会議員に伝えてください」と強く求めている。この高校生だけでなく、自分の声を政策決定者に届けてほしいという回答は非常に多かった。

セーブ・ザ・チルドレンは、国や石川県、関連自治体に今回のアンケート結果を報告し、各地の復興や防災計画に子どもたちが参画する機会を設けること、子どもの意見を尊重し計画に反映することなどを求めたい。また、子どもたちの声を社会に広く伝え、今後の災害における子どもの意見表明の取り組みを強化するよう働きかけたい。

V. 講評

工学院大学 教育推進機構 教授 安部芳絵

2023 年 4 月、こども基本法が施行された。こども基本法は国連子どもの権利条約を理念とし、第 11 条では、「こども施策を策定し、実施し、及び評価する」にあたって子どもの声を聴くことを国と自治体に義務づけた。ここでいう「こども施策」には、子どもの成長に対する支援等を主たる目的とする施策に加え、教育施策、雇用施策など幅広い施策、すなわち防災や災害復興に関する施策も含まれる。ところが、能登半島地震やその後の生活について大人や社会に伝えたいことがあるかどうかたずねた設問に対し、「いいえ」と回答した子どもは 39. 8%であり、「はい」と答えた子ども 36. 8%を上回っていた。子どもの声を聴こうにも、伝えたいことがない子どもが多いというのだ。このことはどう捉えればよいだろうか。

「いいえ」と回答した子どもの自由記述を見ていく。「能登半島地震について感じていること・考えていること」を問うた設問には、「こわかった」「さみしかった」「つらい」といった気持ちがあふれていた。また、「アンケートの感想やセーブ・ザ・チルドレンに伝えたいこと」に対しては「自分の気持ちをすなおにかけてよかったです。」（輪島市、小 4）、「こわかったことを今このアンケートにかけたのでちょっとすっきりしました。」（珠洲市、小 6）、「大人などに直接言えないことを紙に書いて、良い」（能登町、中 1）、「大人や社会に伝えたいことについて、改めて考えてみたいと思った。」（能登町、中 2）、「政府に声を届けることができるアンケートはなかなかないと思うからこういうアンケートはすごくいいと思った。」（七尾市、高 2）といった記述が見られた。

自由記述からは、たとえ大人や社会に伝えたいことがないと答えた子どもたちであっても、アンケートを通して自分の気持ちや考えを言葉にして伝えることに肯定的であることがわかる。気がかりなのは地震で感じた「こわさ・さみしさ・つらさ」が、発災から 8 ヶ月たとうとする今も、周囲に十分に受け止められていないのではないかということだ。

子どもの気持ちが言葉になるには、それを聴く存在や場所、時間の積み重ねといったしくみが必要である。災害時は、平時よりも声をあげにくくなることを考えれば、39. 8%が「いいえ」と答えたことをもって「子どもには意見がない」と捉えるのは性急だろう。つまり、「いいえ」の多さは、国や自治体に子どもの声を聴くしくみがないことを示しているのだ。日常にないことは、非日常ではできない。「もっと子どもの意けんを聞いてほしい」（能登町、中 2）という声を受けとめる、日常から子どもの声を聴くしくみが待たれる。

参考) アンケート用紙

2024 年 7 月

の と はんとうじしん
2024 年能登半島地震から半年
きょうりよく ねが
「子どもたちの声」アンケートご協力をお願い



●●●に住んでいる小学 4 年生から高校生世代のみなさんへ

(※アンケート用紙は、「七尾市」「穴水町」「能登町」「珠洲市」「輪島市」それぞれ作成した。)

こんにちは、セーブ・ザ・チルドレンです。私たちは、「子どもの権利」の実現を目指して、世界各地で活動しています。子どもたちが自分たちに関係があることについて思いや意見を伝えることは、大切な「子どもの権利」です。このアンケートでは、能登半島地震のあと、子どもたちがどんなことを思ったり、考えたりしているのかを聞き、これからの復興が、みなさんにとってよりよいものになるように大人に伝えたいと思っています。書いてくれた内容は、誰が書いたかわからないようにして、市や町、石川県、日本政府や社会に届けます。みなさんのご協力をよろしくお願いします。

※このアンケートは、書きたい人が書いてください。協力してくれる人も、「答えたくない」「むずかしい」と思う質問はとばして大丈夫です。途中でやめても大丈夫です。まちがえや、正しい答えはありません。自分が思ったことを書いてください。

1. あなたについて教えてください。※当てはまる番号に○をしたり、書いたりしてください。

(1)性別 1. 男 2. 女 3. その他

(2)学年・年齢

1. 小4 2. 小5 3. 小6 4. 中1 5. 中2 6. 中3 7. 高1 8. 高2 9. 高3 10. 高4
11. その他()

(3)あなたの住んでいる地区を教えてください。(わからない人は、まわりの大人に聞いてみてください。)

(※アンケート用紙では、自治体ごとに具体的な地域名を選択肢として記載した。オンラインフォームでは、都道府県・石川県内の市町村名・地区名を選択式の設問でたずねた。)

2. あなたは、能登半島地震やその後の生活について、大人や社会に伝えたいことはありますか。

1. はい 2. いいえ(→裏面へ) 3. わからない(→裏面へ)

(1)「はい」と答えた人にお聞きします。

(1)-1. どんなことを伝えたいですか。※当てはまる番号ぜんぶに○をしたり、書いたりしてください。

1. 地震が起きたときのこと 2. 避難しているときのこと(地域の避難所・2次避難所など)
3. 被災した自分のまちのこと 4. 集団避難のこと 5. 学校生活のこと 6. 食べ物のこと
7. 衛生用品や生活用品など身の回りに必要なもののこと 8. 子どもが過ごす場所(遊び場、公園や居場所など)
9. 勉強・学習のこと 10. お金のこと 11. 体やこころのこと 12. 自分の住むまちの復興のこと
13. 自分が復興に向けてできること 14. 自分がまちのために何もできていないと感じること
15. 感謝の気持ち 16. その他()

(1)-2. 上で選んだことをだれに伝えたいですか。※当てはまる番号ぜんぶに○をしたり、書いたりしてください。

1. 総理大臣 2. 国会議員 3. 県知事 4. 県の議員 5. 市長、町長 6. 市や町の議員 7. 保護者
8. 先生 9. 地域の人たち 10. その他()

(1)-3. 具体的にどんなことを伝えたいか、あなたの思いや意見をくわしく教えてください。

(個人情報を書かないようにお願いします。)*次は、裏面の3から答えてください。



(2)「いいえ」「わからない」と答えた人にお聞きします。

なぜそう思ったのか教えてください。※当てはまる番号ぜんぶに○をしたり、書いたりしてください。

1. 勉強でいそがしい 2. 部活や習いごとでいそがしい 3. パイトでいそがしい 4. 話す機会がない
5. 子どもの話を聞いてくれない 6. 話せる相手がいない 7. どこで話したらいいかわからない
8. 話す必要がない 9. 何を話したらいいかわからない 10. 話しても何も変わらない
11. 特に話したくない 12. すでに伝えている(まわりに聞いてくれる人がいる)
13. その他()



3. あなたは、これからの復興に向けて自分の住むまちのために何かしたいことはありますか。今の気持ちに当てはまるものすべてに○をつけたり、書いたりしてください。

1. 自宅やまちの片付け 2. 仮設住宅での手伝い 3. 地域の行事への参加 4. まわりの人をはげます
5. 募金 6. 復興計画について知る 7. 復興について子ども同士で話し合う 8. 復興について大人と話し合う
9. 震災を語りつぐ 10. 勉強・部活・習いごと・バイトなどでいそがしいからできない 11. かかわる機会がない
12. 復興にかなする情報がない 13. 一緒にできる仲間がいない 14. 子どもにできないことがない
15. 何をしたらいいかわからない 16. 特にない
17. その他()

4. そのほか、能登半島地震について感じていること・考えていることなどがあれば教えてください。

(特にない場合もそのことを教えてください。個人情報を書かないようにお願いします。)

5. このアンケートの感想や、セーブ・ザ・チルドレンに伝えたいことがあれば教えてください。

ご協力ありがとうございました。みなさんの大切な声を、日本政府、社会などに届けます。アンケートの結果は、セーブ・ザ・チルドレンのウェブサイトで9月までに公開します。ぜひ、「セーブ・ザ・チルドレン」で検索してみてください。

今困っていることがある場合には、ひとりで悩まず身近な大人や学校などの先生、またはつぎの相談先などに話してみてください。

- ・児童相談所(都道府県や市区町村) 電話：189 (24 時間受付)
- ・あなたはひとりじゃない(内閣府 孤独・孤立対策推進室) チャットボット <https://www.notalone-caio.go.jp/under18/>
- ・24 時間子供SOSダイヤル(文部科学省) 電話：0120-0-78310(24 時間受付)
- ・こどもの人権110 番(法務省) 電話：0120-007-110(月-金 8:30-17:15)



【問い合わせ先】

公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン 国内事業部 担当: 田代・山田
メール: japan.soap@savethechildren.org
電話: 03-6859-6869(平日: 9 時半~18 時)

-
- ⁱ セーブ・ザ・チルドレン 『こどものケンリ』 <https://www.savechildren.or.jp/oyakonomikata/kodomo-no-kenri/learning-kit/>
- ⁱⁱ こども家庭庁 『こども基本法』 <https://www.cfa.go.jp/policies/kodomo-kihon> 第三条こども施策の基本理念三、四において特に子どもの意見表明権の確保について強調されている。
- ⁱⁱⁱ 外務省 『仙台防災枠組 2015-2030（仮訳）』 <https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000081166.pdf>
- ^{iv} 平野裕二訳 『子どもの権利委員会 一般的意見 12 号（2009 年）』
<https://img.atwiki.jp/childrights/attach/22/2/GC%EF%BC%91%EF%BC%92%E3%80%80%E6%84%8F%E8%A6%8B%E3%82%92%E8%81%B4%E3%81%8B%E3%82%8C%E3%82%8B%E5%AD%90%E3%81%A9%E3%82%82%E3%81%AE%E6%A8%A9%E5%88%A9.pdf>

■本アンケートに関する問い合わせ先

〒101-0047 東京都千代田区内神田 2-8-4 山田ビル 4 階

公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン 国内事業部 田代光恵・山田心健

TEL : 03-6859-6869 FAX : 03-6859-0069 MAIL : japan.pfa@savethechildren.org